

第4学年東組 図画工作科学習指導案

「光と影で自分のイメージを表そう ～光とかげから生まれる形～」

学習指導者 造田 朋子

1 学習指導要領に示された本題材に関わる目標及び内容等

1 第3学年及び第4学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

「A 表現」

- (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。
- (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 造形遊びをする活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、全学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること。

「B 鑑賞」

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

2 メタ認知・教科に関する子供（35名）の実態

課題設定以前…授業のはじめに、めあてを書く前に今日することを自分で考えていないと感じている。

(11名)

課題解決中……授業の途中で、自分の工夫と比べながら友達の工夫を聞いていると感じている。(4名)

友達と作品を見せ合うのは、自分の作品をよくするためと感じている。(35名)

自分の作品をよくしようと思ったら友達のものを参考にしていると感じている。(14名)

課題解決後……授業のおわりに、めあてで書いたことができたかどうかを振り返っていないと感じている。

(13名)

個別支援が必要な子供…自由に想像することが苦手（C児）注意力が散漫で、長い時間集中して取り組むことが苦手（A児）じっとしておくことが苦手（B児）

3 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

光と影の形や色などの感じを捉えて思い付いたイメージを表すために、造形的な見方・考え方を働かせ、思いのままにつくり、つくりかえ、つくる。そして、友達と鑑賞し合い自分の見方や感じ方を広げ、さらに発想や構想を繰り返しながらつくり続けている。

本題材では、思い付いた自分のイメージを影絵の手法を用いて表す造形遊びをする。子供たちは、ざるや洗濯ばさみ等の身近な材料やカラーセロファン紙等の色を組み合わせでできた形や色などから受ける感じ、光の当て方による大きさの変化等から自分のイメージをもつ。例えば、形の感じから「尖った形は角に見えるから怖い鬼がつくれそう」とイメージしたり、光の当て方から「光に近くして影を大きくすると鬼の強さがもっと表せそう」や、色の感じから「鬼を濃い紫色にするとさらに強い感じにもなりそう」等と、視点が加わる毎にイメージを広げたりしていく。それらを表そうと、形や色などの感じ、光の当て方の視点から、思いのままに発想や構想を繰り返し、前につくったものの写真と今つくっているものと比べて行きつ戻りつしながら工夫を加えたり、大きく構成し直したりする等して活動する。さらに、鑑賞し合う際には「鬼がもっと怖い感じになる形の工夫を考えたよ。鬼の頭に洗濯ばさみをたくさんつけて尖った角を増やしたよ」「なるほど、尖った形が増えるともっと怖い感じがするね。僕は、強い竜にするために、緑のセロファン紙に赤を重ねて強い感じの色にしたよ。懐中電灯で下から光を当てながら動かすと、大きい竜の影ができて動くよ」「懐中電灯で動かすのはいいな。僕ももっと怖くなるように動かしたいな」等と交流しながら、形や色などの感じ、光の当て方と大きさなどについての自分の見方や感じ方を広げていく。そうして、つくった形や色に別の材料を加えたり、組み合わせ方を変えたりし、形や大きさ、色などを次々と変化させながら、思い付いた自分のイメージを実現させようと、活動を工夫していこう。

4 題材計画（総時数 5時間）

まず形などの感じ、次に光の当て方、その次に色などの感じから工夫を考えるという段階を踏むことで、視点を獲得する毎に思い付いたイメージを表す工夫の広がりを実感できるようにする。さらに、振り返りでは、視点を獲得する毎に影の魔術師に近づくという意識をもたせることで、題材の終末まで、つくり、つくりかえ、つくる造形遊びの活動に対して、高い意欲を継続できるようにする。

次	学習の流れ	働きかけ
	<p>① 身近なもので影をつかって、面白い形をつくらう</p> <p>身近なものを重ねるなどして組み合わせ、光を当てると様々な形の影ができ、面白い表現になると気付く。面白い形を試しながらつくる中で思い付いた、様々なイメージをもち、どのようなイメージであっても実現できる影の魔術師になるという題材のゴールを設定する。</p>	<p>前②～⑤【影の魔術発見ボード】</p> <p>視点毎に見付けた工夫を影の魔術としてまとめ、最初に示しながら学習課題を確認する。</p>
	<p>② 光の当て方を工夫して、影の形をもっと面白くしよう</p> <p>光の当て方で大きさなどが変わる工夫に気づき、思い付いた様々なイメージを表す。形の感じ、光の当て方などから見付けた工夫を鑑賞し合う。</p>	<p>中②④【魔術見付けタイム・シート】</p> <p>形や色の感じ、光の当て方等を視点に、写真等と工夫の視点を示しながら友達と影の工夫を見せ合う時間を設定する。</p>
	<p>③ 影に色をつけてもっと面白くしよう</p> <p>影に色があるとより面白いという気づきから、色と色、形と色の組み合わせ方などの工夫を考え、そこから思い付いたイメージを様々に表す。</p>	<p>後①④⑤【影の魔術師への道】</p> <p>できた工夫はワークシートの影の写真の周りに書き込み、その工夫をした理由と次にしたいことは観点を示した振り返り欄に書く。</p>
	<p>④ 工夫を見付けて、思いついたイメージを表そう (本時 4/5)</p> <p>鑑賞し合うことで、三つの視点から工夫を見付け、それらから思い付いたイメージを表そうと、発想や構想を繰り返しながら活動する。</p>	<p>3回の振り返りを矢印でつなぎ、魔術師になる道とする。</p>
	<p>⑤ 影の魔術師として、つくった影を鑑賞し合おう</p> <p>お気に入りの影を選び、イメージと工夫を紹介しながら鑑賞し合う。</p>	

5 本時の学習

目 標	形や色などの感じ、光の当て方などを視点に、つくった影を友達と鑑賞し合うことを通して、形や色などの様々な工夫を見付け、思いのままに発想や構想を繰り返しながら、イメージした影をつくることができる。
--------	--

	学習活動	主な子供の意識
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【影の魔術発見ボード】	<p>形の感じ、光の当て方の魔術はいっぱい、今日は色の感じを中心に工夫を見付けるよ。今日で三ついっぱいになるから影の魔術師になれそうだね。</p> <p>友達と見せ合ったら、色の感じの魔術がもっと増える。三つの魔術が使えどんなイメージでも表せるよ。</p> <p>色はもちろん、形や光の当て方の魔術ももっと見付けたいな。そうすればきつどんなイメージでも表せるよ。</p>
工夫を見付けて、思い付いたイメージを表そう		
	2 つくった影を鑑賞し、工夫を見付け合う。 【魔術見付けタイム・シート】 (1) 個人で (2) 全体で	<p>たこ足の怖い宇宙人だよ。足のビニル袋に怖そうな感じの色のセロファン紙を組み合わせて入れたよ。</p> <p>箱やペットボトルを組み合わせた賑やかな町だよ。建物の大きさをいろいろ変えて明るい色を選んでつけたよ。</p> <p>箱に三角定規を組み合わせたタワーもあるね。全体に明るい色ばかりにすると、楽しい感じになるね。</p> <p>袋にセロファンを入れるといろいろな色がまだら模様になって怖くなるし、袋を曲げると面白い足の形になるね。</p> <p>今度は明るい色ばかりで宇宙船をつくろう。懐中電灯でいろんな角度から光を当てると、もっと不思議な宇宙船らしくなりそうだね。</p> <p>袋を使うと曲げられるのがいいな。今度はいろいろな袋を組み合わせて怪獣をつくろうかな。洗濯ばさみで棘をたくさんつけて強そうにしよう。</p> <p>他の友達も思い付いたイメージに合う魔術をいろいろ見付けているね。</p> <p>形や色についての魔術がもっと見付かったよ。さっそくやってみよう。</p>
	3 見付けた工夫を生かして活動する。	<p>明るい色でどんぶりUFOをつくろう。懐中電灯を動かすとUFOも動くから不思議さを表せたよ。さっきの宇宙人とセットだと面白いね。宇宙人だけ光に近づけたり遠ざけたりして大きさを変えても面白いね。</p> <p>いろいろな大きさの袋に赤や青などの強い色のセロファンを入れて、体や足をつくってくっつけよう。できたら背中にたくさん棘をつけて、モールで口から炎を出している感じにしよう。三角定規の角も強そうがいいかな。</p> <p>もっといろいろな魔術が使えるようになったよ。写真で記録しておこう。</p>
課題解決後	4 本時の学習を振り返る。 【影の魔術師への道】	<p>友達から似た色をまとめる魔術を見付けたので明るい色ばかりでUFOをつくったよ。宇宙人は大きさを変えて不思議な感じにしたよ。次は小さく建物を入れて町にUFOが来た場面をしたい。</p> <p>形や色の魔術で強そうな怪獣ができてよかった。友達のをみて、袋を曲げたから怪獣が動いている感じになった。三つの魔術がいろいろ使えるようになって魔術師になれたよ。</p> <p>次は、魔術師になってもっと面白い影をつくって、みんなに発表したいな。</p>

評 価	友達と鑑賞し合うことで、三つの視点から新しい工夫を見付け、その後のつくる活動では思いのままに発想や構想を繰り返しながら、イメージした様々な影に合う工夫を考えて、つくり、つくりかえ、つくっている。 【方法：発言・活動の様子・つくっている影・ワークシートの記述】
--------	---

6 働きかけの詳細

～課題設定以前～ **学習活動1** 【影の魔術発見ボード】(②～⑤時間目)

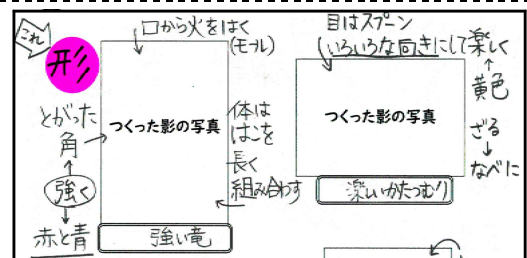
題材のゴールは影の魔術師になるとし、それは、形や色などの感じ、光の当て方の視点から見付けた工夫を活用してどのようなイメージでも自在に影で表せるようになることと共有しておく。視点毎に見付けた工夫を補助黒板にまとめていき、工夫を多く見付けられればなれるとしておく。授業の始めに、三つの視点から今までに見付けた魔術を補助黒板で振り返り、色の工夫が増えれば黒板がいっぱいになり、魔術師になれることを確認した後、課題設定の理由を問う。そして、友達と鑑賞し合うとさらに魔術が見付き、より素晴らしい影の魔術師になれると表出させ課題の妥当性を感じられるようにする。



【影の魔術発見ボード】

～課題解決中～ **学習活動2** 【影の魔術見付けタイム・シート】(②④時間目) **学習活動3**

つくった影の写真を貼り、周りに工夫を書き込んだワークシートを影の魔術見付けシートとする。お気に入りの影の写真を選び、色分けしたシールで特に見せたい視点を示したものを指しながら鑑賞し合う時間を設定する。まずイメージ、次に視点とその工夫を紹介し合う。シールの視点を比較し、工夫を話す中で共通点や差異点を見付け合いながら、互いの影の面白さや新しい工夫に気付いていく。自分で考えた工夫は黒、友達からのことは青で色分けして書くことで、自分の工夫が友達と鑑賞し合うことで広がっていることを実感し、協働のよさを感じられるようにする。シートは屏風のようにつないでいき、様々な影が表せるようになってきたことや、工夫が増えていくという実感をもたせる。自由な発想が苦手な子供もイメージをもてるように、参考になる資料をタブレットに入れて自由に見られるようにする。また、活動中に必要に応じて他の班の友達の行為を見に行ってもよいと共有しておくことで、発想が苦手な子供や集中が続きにくい子供への手助けにもなると考える。

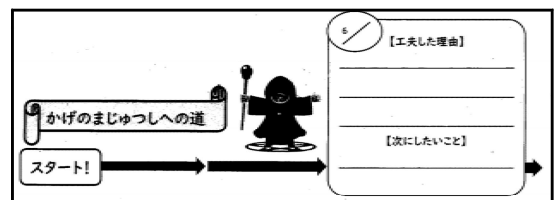


【影の魔術見付けシートの例】

本時では、見付けた友達の工夫などを青で記入しながら鑑賞し合う。造形的な視点を基に対話できるように、影の魔術発見ボードを指して教師が対話の例を示し、既習を振り返って見合う意識をもたせる。対話の手順等が必要な子供は参考にできるように、カードをもたせておく。鑑賞して見付けた友達の工夫、自分に生かしたいことを全体交流し、さらに工夫を追加していく。こうして影の魔術見付けシートに友達の工夫が追加される毎に、様々な影を表せていることから、協働のよさを感じていこう。その後、子供たちは自分の表したいイメージを実現しようと、つくり、つくりかえ、つくる。

～課題解決後～ **学習活動4** 【影の魔術師への道】(①④⑤時間目)

振り返りの際に、見返すことで様々な影が表せていると実感できるように、つくった影はその都度写真で記録する。それらの写真を貼った、影の魔術見付けシートの下に、振り返り欄をつくり、それを矢印でつなぎ、学習が進む毎に魔術師に近づいていく道として振り返り欄を設ける。今日できた工夫は写真を貼る予定の場所の周りに、



【1回目の影の魔術見付けシート振り返り欄】

に、そう工夫した理由と次にしたいことを振り返り欄に書く。できた工夫は毎時間書くが、振り返り欄の記入は3回に絞り、題材の初めの影と、三つの視点を獲得しイメージが広がって面白くできた影とを比較できるようにする。そうすれば、三つの視点から工夫することのよさを、より実感できると考える。振り返りは全体で表出させ、影の魔術発見ボードに書き加えながら、自分の魔術も増えたか問いかけ、再度影の魔術見付けシートを見直させることで自分の伸びや友達と鑑賞し合うよさを感じさせる。最後に、三つの視点から様々な工夫ができるようになったことから、次は影の魔術師として面白い影をつくり発表できることを確認し、次時への意欲を高める。